

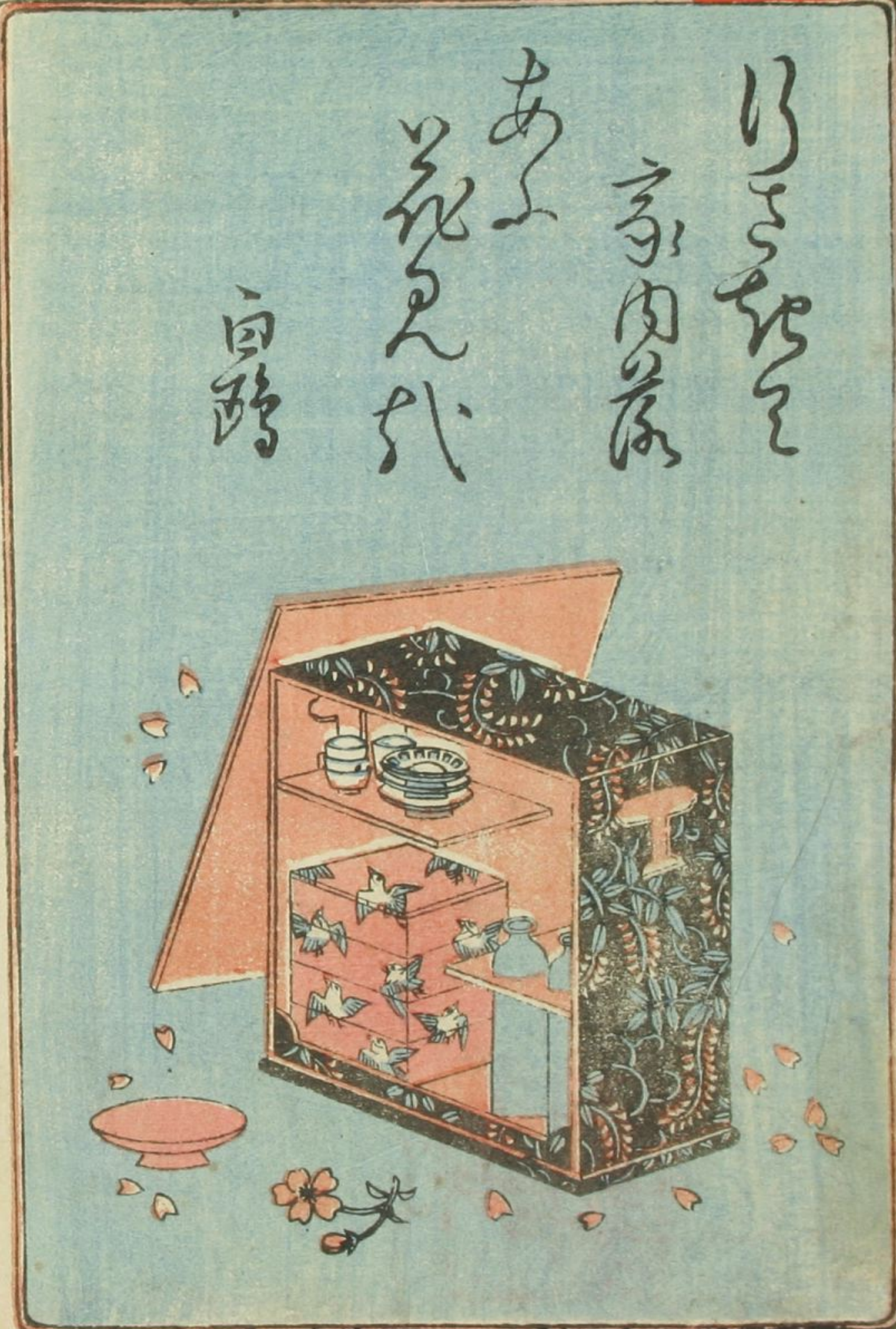
~~D~~
1053

伊賀 伊賀 越
 反 仇 物
 語

十方舎一九作
 北川美丸画

逍遙文庫
 文庫 6
 962





りさるる

家内蔵

あふ

花見代

白路

永田文庫

伊賀道中反仇の事ハ世ニ行ク版本小あまもこ出て席
織翁大らう童までもあつるものありそ紙書肆の
需るふまかせ諸書小考合て稍此編とあつるや
榎井祭田が事跡不其思と懲り川邊葛城が孝信
不其善と勧め逆へうこ色順ハ助らる鬼神の黙
報天道の照覧宣是と簡別せざるべんや勉て父母不
孝養と盡し主家不忠と厥と類族小信義と守り
他人不礼讓と重んじざるものあり其身深達昇進
一家の繁昌超過せん疑る子供衆合更と
とくさ双帝の序びうなるものもかくいふふん
予があらうと草史とて其意味細密ありて深長なれど拙稿不
際限ありとらるるのまゝあつりかゝりて其文と諸器ヤルカ不
文と画とあ後一遠却せし不も多うるべし画のゆめを文よめれ文
の意味更ふさるるも粗なるも色バ枚枚とくく漬つとさるるま
會得さるるも高覧の君子是と察しとるるべし

十返舎一九議





川邊兵衛之灵

葛城匡右衛門
 勇壯逞一ツて刀術不精
 義氣まろ漂平とす
 孝子喜又と補て
 其仇と打斃と



集異記小曰大晋中功及の呂叔とら者他の
 為不害セくれ銘刀と失入死後是不遺忘
 の情と全れ熟と成て其仇敵と討屠工
 竟不重宝の一刀と復とす

死後
 私怨と全て竟不
 其敵とうち素
 意と達

門衛左五傳洲糸

身不中時 怪不 願と
 川邊喜又 正宗
 の刀と談と



愛情不泥と過て
 異疾とらり
 病肝旺の塵不因て邪氣
 是を襲入肝の悪とかくす
 りのまろ今遊云鬼とて
 交とらると是肝不邪有て
 意とるるを得と也と

楚屋
 左大
 田兼



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy, surrounding the central illustration. The text is arranged in vertical columns on both pages, with some lines crossing the gutter. The script is dense and appears to be a narrative or a set of instructions related to the scene depicted.



Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a title.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a title.



其四



さきさきと
うひまが
さるがや
まのて
ひさぶと
ころつら
られし
ふとふ
ころ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

あつち
いれり
まふ
あつち
いれり
まふ

大 尾



著作 十返舎 九
画者 北川美 磨

離工 上村伊之助

○ 伊弉越仇討物語 一九作

○ 夕きり 伊左衛門 徳亭 三孝作

○ おえ茂き物持 東山庵 京山作

○ おえお半七 式亭 三馬作

○ 明烏雪の曙 東山庵 京山作

○ 此介 近日遊く出板は人形を奪ふと本居を捕まへり

○ 猪本赤本虎度

大坂舟町 加島屋清助 画

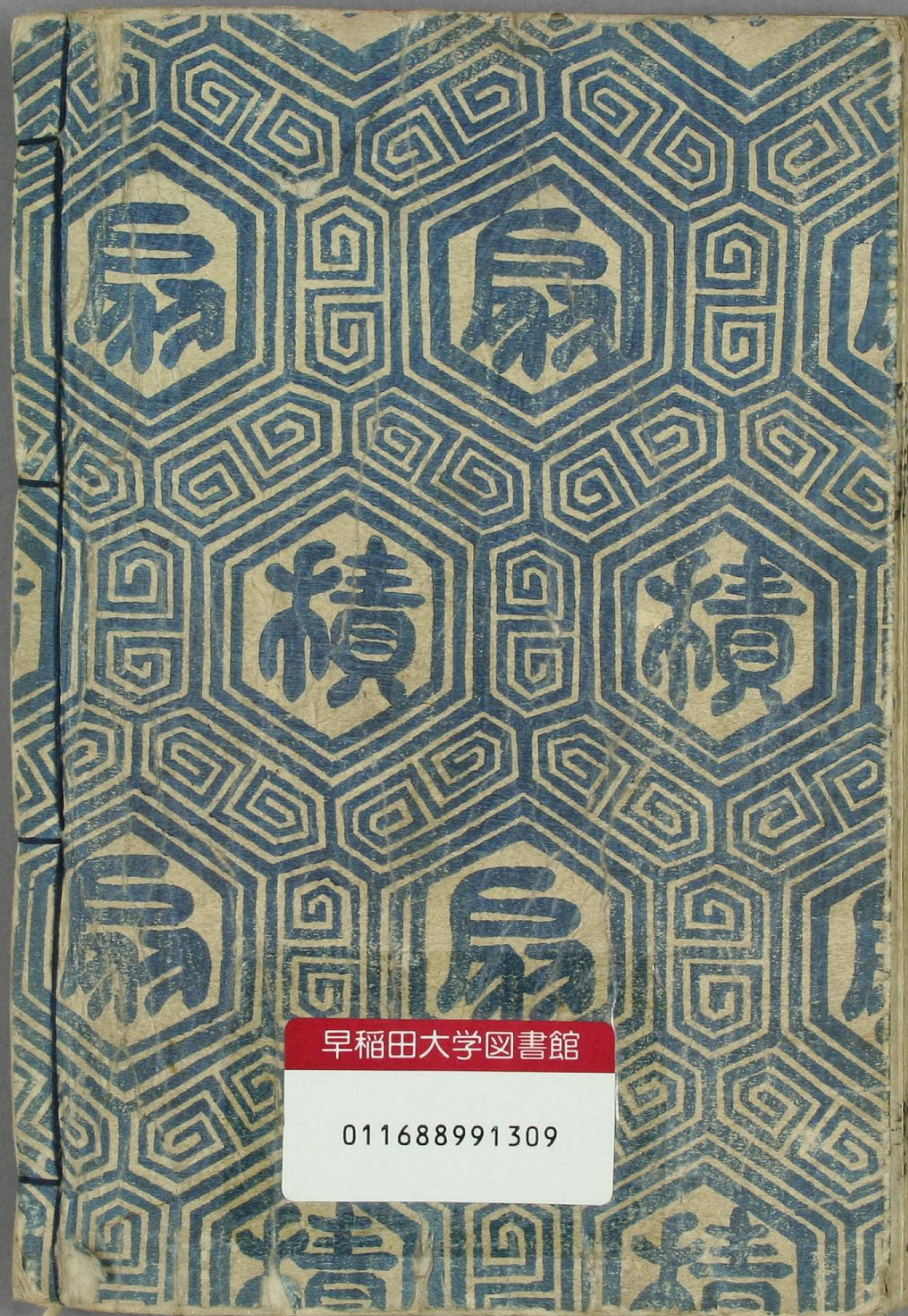
○ 猿けし物語 曲亭 馬琴作

○ 浪花男 金鐘 式亭 小三馬作

○ 月形みやぶ 油亭 馬琴作

○ 和合神 式亭 三馬作

○ 弘法利益譚 曲亭 馬琴作



早稲田大学図書館

011688991309